



ています。私が整地をした時はこのような状況でした。

家で井戸を掘りました。(スケッチ3) 水が出るところまで深さ13mでした。

坂道がありますが、ひと山を崩して2mほどの石垣を積んで家を立てました。聞くところによると、この石垣を積んだ下から雨が降ると湧水、出水(でみず)があつてしようがなかったということです。

このへんの土壌は砂礫ですが、一部水の通りにくい層があり、雨が降って水が多くなると出てくる。普段は水が浸みとおつて出てこない。このような地下の様子を井戸を掘ってわかりました。

―玉川上水の遺構が府中に―

高崎 今、ローム層の話がありました。川兄弟を甘くみていたところがありました。ところが『上水起元』(注2||4ページ参照)にもつてきたが福生でも失敗したとあるのです。府中で失敗したとあるが、そのような遺跡は出るわけがないな、と思つていたのです。

ところが平成8年に府中の発掘があり、玉川上水の堀跡が発見されたと新聞に出ました。私が見て早速行つてみました。それが写真3です。それをあげてみるものがありました。いままで『上水起元』は玉川兄弟をおとしられるように書き方だったものですよ。私も玉川兄弟を甘くみていたところがありました。ところが



写真3 府中の堀跡 写真提供：高崎氏



写真4 上田宅(昭和48年頃)

これを見た時に、玉川兄弟はすごい技術者だなあと感心したのです。なぜかと言うと府中のこの工事をやつている時点で、砂利層にロームを貼り付けていたからです。水が逃げないように泥を貼り付けているのです。同じ工事を玉川兄弟が福生でやつているとすれば、必ずロームを貼り付けて工事をやつていると確信していましたが、それを確認することは容易ではありません。自分で発掘するわけにもいきません。なんとかこのようなことがわかればいいな、と思つていたのです。パネルディスプレイの少し前に上田先生とお会いして、先生から「まさかと思うところにロームがあるのだよ」とうかがったのです。

上田 地質学をやっていたものですから、あれ、おかしいな、と気がつきました。これは立川面よりも低いのですから。そこにロームがあるのはおかしいと思いました。

高崎 私の計算だと4mくらい低いと思います。

上田 おかしいな、と思ひ掘つていくとすぐに砂利なのです。

―堀跡は拝島駅北口まで続く?―

上田 写真4は昭和48年ごろの家の前の現在駐車場になつていているところですが、ここを削つてしまつたのですが、ここも堀のあとがありました。その前のお宅(写真4の右上)にも堀跡がありました。これが連続して、我が家にきていました。上から土が崩つてしまつてしまつてざらざら落ちてしまつていました。その写真もあるはずなのですが、みつきりませんでした。

高崎 拝島の稲荷のとなりにあるお宅は前の道(旧日光街道)に直角に正対していません。斜めに建つています。堀跡に沿つて建てられたのではないのでしょうか。

上田 米軍の航空写真(4ページ)をみればはつきりしていますね。

高崎 私達が研究をはじめた昭和53年ごろには、まだ拝島駅北口の方に堀跡がありました。現在は駅の構内になつていますが、ケヤキの木が何本か生えており、1.5mくらいの深さの堀が20mくらい続い